

第111回
品質管理シンポジウム



データ駆動型社会における 顧客価値創造と 組織能力(品質保証)向上

大嶽 充弘氏

NECプラットフォームズ(株)
取締役執行役員専務

山本 圭司氏

トヨタ自動車(株)
執行役員

椿 広計氏

大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構 理事
統計数理研究所長

森川 博之氏

東京大学大学院
工学系研究科・教授

鈴木 和幸氏

電気通信大学名誉教授・特任教授

出口 雄吉氏

東洋(株)
代表取締役副社長執行役員

開催期日：2021年6月3日(木)～6月5日(土)

会場：大磯プリンスホテル

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後援：一般社団法人 日本品質管理学会

趣 旨



鈴木 和幸 氏

電気通信大学名誉教授・
特任教授

第111回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

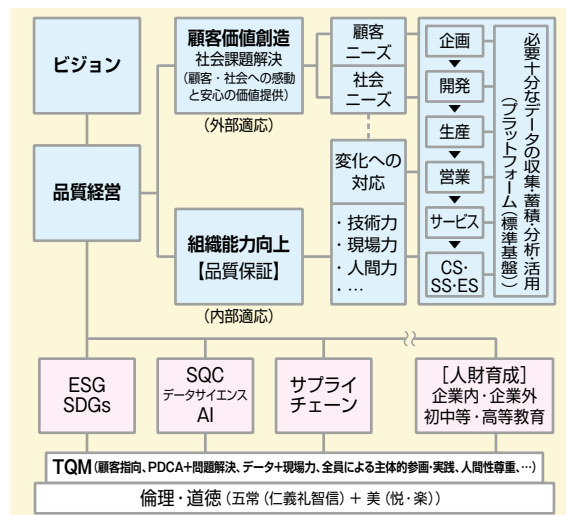
我が国がさらなる経済立国として世界経済に貢献していくためには、コロナ禍の新常態における経営・経済環境の変化に即応し、変化する市場のニーズに適合したモノづくり・コトづくりを通じて、顧客が期待する十分な価値を提供し、感動と安心を与える“顧客価値創造”とともに変化に対応する“組織能力”の向上を図る“あらたな品質経営”が大切です。本シンポジウムでは、“データ駆動型社会”を“顧客・社会のニーズから企画・開発・生産・営業・サービスそして顧客・社会満足度までの一貫した必要かつ十分なデータの収集・蓄積・分析・活用による顧客価値創造が為されていく社会”と定義し、品質経営の加速を検討します。この為には、倫理・道德・ESG（環境・社会・ガバナンス）・SDGs（持続可能な開発目標）を基盤とするモノ・コトづくりへの理念、経営トップのリーダーシップ、全部門全構成員の主体的参画、サプライチェーン全体での品質保証、情報プラットフォーム（標準基盤）化、一企業を越えた人材育成など、図に示すスキームが必要となります。

以上を踏まえ、本QCSでは、コロナ禍の新常態に即応するデータ駆動型社会へ向けて

- (1) 顧客価値創造への一人一人のニーズとまだ見えていない必要かつ十分なデータを如何に収集・蓄積・分析を行い、社会共通のメタニーズを探り出すと共にカスタマイズを如何に図るか。
- (2) 必要かつ十分なデータに基づく企画・開発・生産・

営業・サービスそして顧客・社会満足度までの一貫したプロセスをどのように構築し、顧客と社会に満足を与え続ける品質経営を加速しうるか。

- (3) コトづくりでの信頼・安心を与える品質保証の確実な体系の確立とその実践と共に、データサイエンス・AI・SQCの駆使を始めとする組織能力向上を如何に図るか。
- (4) サプライチェーン全体での品質確保への品質経営のあるべき姿とその自己評価を検討します。



プログラム		開催期日：2021年6月3日(木)～5日(土) 会場：大磯プリンスホテル	
月 日	時 間	科 目	講 演 者
6/3 (木)	19:30～20:40	<特別講演> 5G／Beyond 5G時代における新たな価値創造へのデジタル経営	森川 博之 氏 東京大学大学院工学系研究科 教授
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	GD（自己紹介）	
	22:00～23:00	談話室（QCバー）（オンライン、自由参加）	
6/4 (金)	8:30～8:45	主催者挨拶	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:45～9:45	<基調講演> 新常態とデータ駆動型社会における顧客価値創造と未然防止	鈴木 和幸 氏 電気通信大学名誉教授・特任教授
	9:45～9:55	質疑・応答	
	9:55～10:05	休憩	
	10:05～11:05	<講演1> 素材起点の「共創」による社会価値創造	出口 雄吉 氏 東レ(株) 代表取締役 副社長執行役員
	11:05～11:15	質疑・応答	
	11:15～12:15	<講演2> クルマの進化とこれからのモビリティ社会	山本 主司 氏 トヨタ自動車(株) 執行役員
	12:15～12:25	質疑・応答	
	12:25～13:15	昼食・休憩	大嶽 充弘 氏 NECプラットフォームズ(株) 取締役 執行役員専務
	13:15～14:15	<講演3> Together with “MONOZUKURI”の加速へ ～ NECプラットフォームズの顧客価値創造と組織能力向上～	
	14:15～14:25	質疑・応答	
	14:25～14:35	休憩	
	14:35～15:35	<講演4> データ駆動型時代のヒト・コトづくり	椿 広計 氏 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 理事 統計数理研究所長 鈴木 和幸 氏
	15:35～15:45	質疑・応答	
	15:45～15:55	GDの趣旨説明	
	15:55～16:05	休憩	
	16:05～18:00	GD（1）	司会：鈴木 和幸 氏 報告：各班リーダー
	18:00～18:45	夕食	
	18:45～20:15	GD（2）	
6/5 (土)	8:30～10:00	GD報告（10分×8班 ※予備10分）	鈴木 和幸 氏
	10:00～10:15	休憩	
	10:15～11:35	総合討論	112QCS主担当宮本真志組織委員
	11:35～11:45	第111回 品質管理シンポジウム まとめ	
	11:45～12:00	次回（112回）品質管理シンポジウム案内、連絡事項	
	12:00～	昼食・解散	

※GD：グループ討論の略称。
※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。
※組織名・役職は、2020年3月1日時点の表記になっております。

6/3 (木) 特別講演

5G / Beyond 5G時代における新たな価値創造へのデジタル経営

森川 博之 氏 東京大学大学院工学系研究科・教授

COVID-19により社会観や世界観の変化が生じつつある中、デジタルが産業構造や事業構造や社会構造の変革を加速しつつあります。いかなる産業領域の企業であっても、新たな価値を創出する経営戦略の中にデジタルを位置付けていかなければなりません。5G/ポスト5G / Beyond 5Gを例にとりながら、「進化するテクノロジー」「船に乗る」「気づきにつながる多様性」「パイを奪い合うのではなくパイを広げる」などといった視点でデジタルに向き合っていくことが重要となることについてお話するとともに、「制約がなくなる世界」という視点から5G/Beyond 5Gの潜在力についてお話しします。



6/4 (金) 基調講演

新常態とデータ駆動型社会における顧客価値創造と未然防止

鈴木 和幸 氏 電気通信大学 名誉教授・特任教授

AI、ビッグデータ、IoT、DXは手段であり、目的ではありません。これらを活用し、グローバル化した経営・経済環境の変化に即応し、変化する市場のニーズに適合したモノづくり・コトづくりを通して、社会の繁栄と国家経済の伸張に貢献し、顧客と社会が期待する十分な価値を提供し、信頼と安心を与えることが大切です。本講演では、新常態下でのデータ駆動型社会へ向けて、AI・ビッグデータ・IoT・DXを駆使し、モノづくり・コトづくりの変革、効果的なデータの収集・蓄積・分析・活用、品質保証における三確（確保・確認・確証）、ならびに信頼と安心を与える未然防止のポイントをコロナ関連データの分析とともに論じます。



6/4 (金) 講演 1

素材起点の「共創」による社会価値創造

出口 雄吉 氏 東レ(株) 代表取締役 副社長執行役員

私たち東レグループは、21世紀の世界における最重要の共通課題であるサステナビリティ（持続可能性）に、事業を通じて貢献することを経営理念として掲げています。気候変動対策や健康など世界が直面する「発展」と「持続可能性」の両立をめぐる様々な難題に対し、素材メーカーとして先端技術・先端材料を起点として、本質的なソリューションを提供していくこと、そのために川下のお客様との信頼関係をベースとした共創によって、顧客価値を含む社会的価値を創造していくことが重要と考えて実践しています。このような取り組みの事例と、その背後にある経営理念や創業以来培われた企業文化についてご紹介します。併せて、価値創造を支える品質保証体制と重点課題についてもご紹介します。



6/4 (金) 講演 2

クルマの進化と これからのモビリティ社会

山本 圭司 氏 トヨタ自動車(株) 執行役員

電動化、知能化、情報化の進展により自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えようとしている中、クルマのつながる化によりクルマは社会システムの一つに組み込まれ、クルマの在り方そのものも変わろうとしている。全世界で伸長するMaaSや開発競争が激化する自動運転を中心にモビリティそのものがどのように変わっていくのか、そして我々が目指すべき豊かで実りあるモビリティ社会のイメージを、モビリティエコシステムとそれを支えるモビリティサービスプラットフォームの重要性と共に紹介する。



6/4 (金) 講演 3

Together with “MONOZUKURI”の加速へ～NECプラットフォームズの顧客価値創造と組織能力向上～

大嶽 充弘 氏 NECプラットフォームズ(株) 取締役 執行役員専務

NECグループは、2020年4月にNEC Wayを刷新し、NEC及びNECグループ関係会社が一体となって、安全・安心・公平・効率という社会価値の創造と、誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指しております。2011年から6年間をかけてグループ内の組織を再編し2017年に現在の組織・体制となったNECプラットフォームズは、ICT製品・システムを提供するグループ中核企業として、顧客価値創造ものづくりを実践しております。その実践に際して強く意識しているのが、現場革新、デジタル、顧客価値の3軸です。本講演では、この3軸の取り組み事例を紹介すると共に、NEC Platforms Vision2025の実現に向けた組織能力強化の考え方をご説明します。



6/4 (金) 講演 4

データ駆動型時代のヒト・コトづくり

椿 広計 氏 大学共同利用機関法人

情報・システム研究機構 理事 統計数理研究所長

日本は、欧米中に比してデータサイエンス人材育成に後れをとりました。ようやく、文理を問わず大学生全員を対象とした人工知能リテラシーレベル教育を始めようとしています。人工知能は、統計的表現と数理最適化とに支えられた技術に過ぎませんが、それをどうやって知識・経済の価値創生、いわゆるコトづくりに繋げるかが肝要です。しかし、その活用プロセスの知がバランスよく体系化されているのは、国内外において品質マネジメント分野以外ありません。人工知能を品質管理・品質工学やORで用いられてきた従来の技法の延長線上にその機能を分類し、デミング・石川の問題解決標準シナリオに埋め込むコト、これを産学一体となって実現しなければなりません。逆に、その体系化を通じて、データ駆動型時代のヒトづくりが議論できるはず。本講演は、その種の議論に必要な情報を提供したいと考えています。



111QCSグループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班	品質経営へのサプライチェーン全体の質向上へのトップの役割 ■リーダー:石津 昌平(青山学院大学 理工学部 経営システム工学科 教授)・荻島 賢一(コニカミノルタ株式会社 品質本部 品質保証企画部 部長) 趣旨 サプライチェーン全体での品質確保への品質経営のあるべき姿とその自己評価を検討する。データ駆動型社会に向けて、顧客・サプライヤー・異業種等との共創を行うために、価値観を共有し、一貫した顧客価値創造とその品質保証を行うためにはトップの役割が重要である。新たな知の導入と既存事業とのバランスとともに、サプライチェーン全体の底上げにおける現状と課題を検討する。これらを進めるうえでの自己評価の在り方も検討したい。	論点 ①データ駆動型社会におけるサプライチェーン全体の品質経営のあるべき姿と経営者の役割は何か。 ②品質確保へのサプライチェーン全体の底上げにおける現状と課題は何か。 ③サプライチェーン全体の品質経営をどのように自己評価すればよいのか。
第2班	顧客価値創造への顧客ニーズの収集・蓄積・分析・活用の基本理念と基盤構築 ■リーダー:横川 慎二(電気通信大学 i-パワードエネルギー・システム研究センター 教授)・筒井 幸雄(株式会社安川電機 執行役員 技術開発本部 外部連携・技術開発担当) 趣旨 グローバル化した経営・経済環境のもと、BtoBのコトづくりをBtoBtoXにスコープ展開して持続可能な顧客価値創造に繋げるには、顧客一人ひとりのニーズを可視化し、共通するメタニーズを抽出することが重要です。その際の、情報の収集・蓄積・分析・活用には、即時的な方法論を超える基本理念と、その基盤の構築が必要となります。2班では、各社の取組の現状と課題を共有し、あるべき姿の提言をまとめていきます。	論点 ①顧客ニーズの収集・蓄積・分析・活用に向けた取り組みには、どのような成功/失敗例があるか。 ②過去の取り組みや、現在の仕組みの中で課題となるものは何か。将来に向けた、改善すべき点は? ③持続可能な顧客価値創造につなげるための、データ収集・蓄積・分析・活用のあるべき姿は何か。
第3班	データ駆動型社会における顧客価値創造のあり方と異質で新たな価値次元の創出プロセス ■リーダー:丸山 一彦(和光大学 経済経営学部 経営学科 教授)・阿部 賢一郎(ダイヤモンドエレクトロニクスホールディングス株式会社 執行役員 CQO) 趣旨 今日、モノの使用を通じて得られるサービス全体(ユーザー体験)の価値(コト価値)思考を用いて、これまでとは異質で、新たな価値次元(イノベーション)を創発する重要性が増している。しかし、コト価値やイノベーション創発の考え方(用語含む)を多くの企業(特に製造業)が十分にに取り込めずにいることが指摘されている。第3班では、顧客価値創造の現状把握と問題点・課題を整理し、コト価値思考でイノベーション創発を発揮させる「組織的なやり方」を検討・議論することで、「自分ごと化」できる新規事業創出の顧客価値創造活動体系の「あるべき姿」とそれに役立てるデータ駆動型社会の「プロセス課題」を検討する。	論点 ①データ駆動型社会が実現する顧客とのコト価値共創の構図はどうあるべきか。 ②これまでとは異質で、新たな価値次元(イノベーション)の創出を皆で発揮させるプロセス・環境はどうあるべきか。 ③自分ごと化できる新規事業創出の顧客価値創造活動体系(コト価値思考で新たな価値次元を皆で見出し、新規事業を開発する創出体系)のあるべき姿とは。
第4班	データ駆動型社会における開発・設計 ■リーダー:長塚 豪己(中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授)・小関 和宏(リコーテクノロジーズ株式会社 理事) 趣旨 開発・設計におけるQ・C・Dの同時達成の難しさはどの企業もがかかえる難問である。さらにデータ駆動型社会において、BtoBでのコトづくりをBtoBtoXまでスコープを広げ、企画・開発・設計を如何に行うべきか。このプロセスの見える化とデータの収集・蓄積・分析・活用へのICT・IoT・データサイエンス・AI・SQCの有効活用も視野に入れ検討する。	論点 ①データを活用した開発・設計の現状。 ②データ駆動型社会における開発・設計のあるべき姿。 ③②の実現における問題点とそれを解決するための課題は何か。
第5班	データ駆動型社会における生産と営業・サービスのプロセス構築 ■リーダー:西 敏明(岡山商科大学 経営学部 教授)・三好 通生(株式会社ユニバンス 執行役員 経営管理本部) 趣旨 データ駆動型社会においては、モノづくりやコトづくりを中心にデジタル化を図り、これを活用し、生産現場と商品の使用・保全・エンディングまでを変えていくことが大切である。生産現場と顧客の使用・保全・廃棄までをIoT, ICTを活用し地球規模での見える化と情報収集・蓄積・活用をはかり、モノとコトを如何に実現するか。生産および材料・部品の調達から、物流・営業・サービス・保全・廃棄に亘る変革の必要性和そのプロセス構築を討議する。	論点 ①生産の現状とデータ駆動型社会におけるあるべき姿。 ②営業・サービスの現状とデータ駆動型社会におけるあるべき姿。 ③デジタル化を活用した上記①②への課題解決とプロセス構築。
第6班	データ駆動型社会における品質保証 ■リーダー:山田 秀(慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 教授)・斉藤 忠(岡谷電機産業株式会社 経営企画部 部長) 趣旨 品質保証の狙いは、顧客、社会のニーズや市場の品質、使用、環境情報を調査分析し適切な品質目標を定め、これを確実に達成するためのプロセスの確立にあります。第6班では、データ駆動型社会における品質保証が実現できる組織能力の向上のために、デジタルトランスフォーメーション(DX)による利点、うまみ、留意事項、また、導入・活用には多企業の連携を含めた品質保証のあり方、さらに、DXの構想設計段階における品質保証上のポイントについて、各社の取組みや課題を議論します。	論点 ①品質保証上でデジタルトランスフォーメーションの実装による利点、うまみ、留意事項は何か。 ②サプライチェーン全体で品質確保するための品質保証体系とはどのようなものか。 ③デジタルトランスフォーメーションの構想設計段階で押さえておきたい品質保証上のポイントは何か。
第7班	データ駆動型社会におけるデータサイエンス・AI・SQCの融合と人財育成 ■リーダー:永田 靖(早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授)・渡邊 克彦(トヨタ自動車株式会社 TQM推進部 グループ長) 趣旨 DCM(車載通信モジュール)を初めとするICT, IoTの活用を通して、また顧客の現場に入り込み、顧客や現場の問題・困り事を見える化し、価値あるデータを蓄積し、分析・活用し、これを顧客価値創造へつなげるために、データサイエンス・AI・SQCをどのように活用すればよいのか。そしてこれらをどのように融合し、体系を構築し、人財を育成すればよいのか。DCM, ビッグデータなどへのデータサイエンス・AI・SQCの活用例を基に、あるべき姿と人財育成を検討する。	論点 ①データ駆動型社会において必要なデータサイエンス・AI・SQCとは。 ②顧客価値創造へ向けてデータサイエンス・AI・SQCをどのように融合すればよいのか。 ③これらの融合されたデータサイエンス・AI・SQCにおいて、どのような人財育成をすればよいのか。
第8班	データ駆動型社会における「これからの品質経営(顧客価値創造と組織能力獲得・向上)」のあるべき姿と課題 ※TQMは、品質経営のための「基盤」となる活動で、今回はデミング賞の評価基準に示されたものをを用います。 ■リーダー:棟近 雅彦(早稲田大学 理工学術院 教授)・安随 正巳(一般財団法人日本科学技術連盟 品質経営推進センター 部長) 趣旨 データ駆動型社会への変革においても、組織経営を円滑に進めるツールとしてTQMの有用性は不変と考えますが、変化に合わせて変えていくべき点はあるのか、「デミング賞 評価基準」をベースに検討していきます。また、109QCSで発行した「令和の大機宣言」の肝である「これからの品質経営」のかたち、「顧客価値創造」と「組織能力獲得・向上」の実現に向けて、あるべき姿と現状の課題について、各社の取り組みを共有し、具体的な提言をまとめていきます。	論点 ①データ駆動型社会におけるこれからの品質経営(顧客価値創造と組織能力獲得・向上)はどうあるべきか。 ②データ駆動型社会において、TQMの何をどう強化すべきか。 ③②を行う上での課題は何か。その解決のために何をなすべきか。

※各班10名を定員としております。先着順となりますので、第1希望の班が定員に達した場合、第2希望とさせていただきます場合がございます。
 ※組織名・役職は、2021年3月26日時点の表記になっております。

〔確認ください!〕第111回品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

- **データ駆動型社会…顧客・社会のニーズから企画・開発・生産・営業・サービスそして顧客・社会満足度までの一貫した必要かつ十分なデータの収集・蓄積・分析・活用による顧客価値創造が為されていく社会**
- **品質…顧客及び社会のニーズを満たす度合い**
- **品質保証…顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動**
⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
- **サービス・ドミナント・ロジック…価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる**
※顧客の使用プロセスを含めなければ品質保証は完結しない
- **グッズ・ドミナント・ロジック…価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている**
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭に置き、「顧客は何ができれば喜ぶのか?」という着眼点で考える。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください! QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

- **メリット1** 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。
- **メリット2** グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。
- **メリット3** 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員：1口につき年額199,100円（税込み） 団体会員：1口につき年額117,700円（税込み）

※2020年度から、年会費を改定させていただいております。

入会いただきますと

- **企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）を確保できます。**
- **団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。**
- 無料参加枠以外の方は特別価格（44,000円・税込み）でご参加いただけます。
- 本シンポジウムの発表報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付しております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2021年3月現在、50音順 117社

1 アート金属工業 (株)	31 澤藤電機 (株)	61 (株) 東海理化	91 日野自動車 (株)
2 (株) アーレスティ	32 サンデンシステムエンジニアリング (株)	62 東久 (株)	92 ヒロセ電機 (株)
3 アイシン・インフォテックス (株)	33 サンデンホールディングス (株)	63 東レ (株)	93 (株) フジクラ
4 アイシン・エイ・ダブリュ (株)	34 (株) シーヴィテック	64 TOTO (株)	94 富士ゼロックス (株)
5 アイシン機工 (株)	35 (株) GSユアサ	65 (一社) 富山県経営者協会	95 富士ゼロックスマニュファクチャリング (株)
6 アイシン軽金属 (株)	36 (株) ジーシー	66 トヨタ自動車 (株)	96 富士電機 (株)
7 アイシン精機 (株)	37 (株) ジーシーデンタルプロダクツ	67 トヨタ自動車九州 (株)	97 フジミ工研 (株)
8 愛知製鋼 (株)	38 JFEスチール (株)	68 トヨタ自動車北海道 (株)	98 フタバ産業 (株)
9 アイホン (株)	39 (株) ジェイテクト	69 (株) 豊田自動織機	99 (株) プリチストン
10 (株) 麻生	40 芝浦機械 (株)	70 トヨタ車体 (株)	100 ぺんてる (株)
11 (株) アドヴィックス	41 清水建設 (株)	71 豊田鉄工 (株)	101 保志
12 (株) イシダ	42 JUKI (株)	72 豊田バンモップス (株)	102 本田技研工業 (株)
13 NECプラットフォームズ (株)	43 シロキ工業 (株)	73 トヨタ紡織 (株)	103 前田建設工業 (株)
14 (株) FTS	44 (株) SUBARU	74 トヨタホーム (株)	104 (株) 前田製作所
15 (株) MCシステムズ	45 住友理工 (株)	75 長津工業 (株)	105 マツダ (株)
16 エリーパワー (株)	46 積水化学工業 (株)	76 新潟ダイヤモンド電子 (株)	106 (株) マルヤスエンジニアリング
17 大塚化学 (株)	47 (株) セキソー	77 (株) ニコン	107 丸和電子化学 (株)
18 岡谷電機産業 (株)	48 ソニーセミコンダクタソリューションズ (株)	78 日華化学 (株)	108 三島食品 (株)
19 (株) オティックス	49 ダイキン工業 (株)	79 (株) 日科技連出版社	109 三菱電機 (株)
20 オムロン (株)	50 (株) 大広	80 日産自動車 (株)	110 村田製作所 (株)
21 鹿島建設 (株)	51 ダイハツ工業 (株)	81 日産車体 (株)	111 (株) メイドー
22 関西電力 (株)	52 大豊精機 (株)	82 日本精工 (株)	112 名北工業 (株)
23 (株) キャタラー	53 ダイアモンド電機 (株)	83 日本電気 (株)	113 (株) 安川電機
24 光洋サーモシステム (株)	54 大和リース (株)	84 (株) 日本科学技術研修所	114 (株) ユニバンス
25 コーセル (株)	55 (株) 竹中工務店	85 日本商工会議所	115 楽天 (株)
26 小島プレス工業 (株)	56 中国化薬 (株)	86 日本特殊陶業 (株)	116 (株) リコー
27 コニカミノルタ (株)	57 (株) 千代田グラビヤ	87 パナソニック (株)	117 リコーテクノロジー (株)
28 (株) 小松製作所	58 DMG森精機 (株)	88 パナック (株)	
29 (株) コロナ	59 テックスエンジンソリューションズ (株)	89 (株) 羽生田製作所	
30 サラヤ (株)	60 (株) デンソー	90 日立Astemo (株)	

参加要領 ※詳細は、開催要領をご確認ください。(宿泊費等)

開催日時 **2021年6月3日(木) 19:30~5日(土) 12:00**

(6月3日受付開始17:00~、夕食18:00~)

第111回品質管理シンポジウムは、現段階では予定通り開催いたします。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大等、都道府県・自治体または保健部局の協力要請等により、中止とする場合がございます。

最新情報は、適宜webサイトでご案内を申し上げますとともに、連絡担当者様にe-mail等で別途ご連絡いたします。
(2021.3.26)

会場 **大磯プリンスホテル**

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷546 TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

■参加対象 企業の役員、上級管理職の方々

※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論
テーマに深い関連のある部門とその役割を担う
方々のご参加について、ご検討をお願いします。

■参加方法

集合参加・・・現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シン
ポジウムの全プログラムへ参加可能

ライブ配信参加・・・PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演
1~4(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)
を視聴可能

※ライブ配信参加の場合、GDへは参加できません。

※ライブ配信の詳細(配信プラットフォーム、推奨環境等)は
Webサイトをご参照ください。

■参加費(税込)

●QCS企業会員・団体会員

参加方法に関わらず、トップ枠・通常枠の2名無料枠をご利用
いただけます。無料枠以外の参加は、参加方法に関わらず、
44,000円/1人の参加費を申し受けます。

●一般参加

ライブ配信参加のみ 99,000円/1人

●団体参加(ライブ配信参加) **NEW**

シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部
の方々に参加(視聴)いただく場合に、ご利用しやすいように
今回から新設した参加形態です。

◆50名まで...330,000円

◆51名~100名まで...880,000円

◆101名~200名...1,100,000円

※200名以上の場合は、下記までお問い合わせください。

●その他、付帯費用

・宿泊費は、開催要領をご確認ください。

・食事代(6月3日夕、6月4日朝・昼・夕、6月5日朝・昼)
は参加費・宿泊費に含まれています。尚、宿泊費、交通費は
ご負担ください。

※大磯プリンスホテルは全館禁煙です。喫煙禁止場所(各居室
等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング
代を請求いたします。(電子タバコも禁止です)

■シンポジウム申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

<http://www.juse.jp/qcs/>

一次申込期日: 4月19日(月) までとさせていただきます。

※一次申込期日までは、集合参加でのお申し込みは、ソーシャルディスタンスの確保、3密の回避の観点から、各社1名様
に限定させていただきます。

一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、二次申込を実施します。

二次申込の詳細は、改めてご連絡いたします。

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)



第110回

パナソニック㈱ 代表取締役 専務執行役員
コネクテッドソリューションズ社 社長

樋口 泰行 氏



第109回

楽天㈱
副社長執行役員 COO

百野 研太郎 氏



第108回

㈱麻生
代表取締役会長

麻生 泰 氏



第107回

コニカミノルタ㈱
代表執行役社長 兼 CEO

山名 昌衛 氏



第106回

㈱日立製作所
取締役 代表執行役 執行役社長 兼 CEO

東原 敏昭 氏



第105回

花王㈱
代表取締役 社長執行役員

澤田 道隆 氏

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

(組織名・役職は2021年3月26日時点の表記になっております)



猪原 正守

大阪電気通信大学名誉教授



鈴木 和幸

電気通信大学名誉教授・
特任教授



小笠原 浩

㈱安川電機
代表取締役社長



中條 武志

中央大学 教授



宮本 眞志

トヨタ自動車㈱
カスタマーファースト推進本部 本部長
Global Chief Quality Officer

シンポジウムに関する問い合わせ先: 一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当(安随/池田)

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL: 03-5378-1215 FAX: 03-5378-9842 E-mail: tqmcre@juse.or.jp

参加/宿泊申込・請求に関する問い合わせ先: 株式会社JTB 虎ノ門第二事業部 QCS事務局(担当: 山下/幸(みゆき)/奈良)

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング12階

TEL: 03-5539-2849 FAX: 03-5539-2828 E-mail: qcs@jtb.com